

1 工程@1円～知的障害者の労働現場

21： 作業着

千葉 晃央

援助者×利用者@SNS

私の作業着姿を SNS にアップした。そうするとある方がコメントをくださった。「涼しそうでいいですね！」という旨だった。私が着ていたのは作業服の夏服で、生地も薄く比較的涼しい。そして、そのコメントを下さった方が働く事業所は最近、作業時間内の作業服着用を導入したばかりと聞いていた。そのため、夏服と冬服の使い分けまでは手が回っていないようだった。確かに利用者全員分の作業服を夏用、冬用二組準備するのはコスト的にも大変である。そんな様子も援助者と被援助者の垣根を超えて、SNS というところで聞こえて来る時代になっている。

くなる。関西では5月から10月までは半袖が中心のワードローブになる。そのため、作業服もほぼ半年ごとに夏服と冬服とで衣替えを行っている。冬服は生地もしっかりとしていて、とても丈夫である。そして、冬の時期の私の最近の好みは作業服のズボンを少し余裕があるサイズにして、そのズボンの下にスウェットもはいて、防寒することである。冬の作業場はどうしても寒い。作業する環境は基本的に工場のように空間的に余裕がある。仕上がったものを出荷に備えて外に出す、ほこりや臭気の問題で換気が必要である等外気が入り込むという状況は常についてくる。そのため、アンダーウェアやカイロ等の個人での調節は欠かせない。これは利用者の皆さんも同様である。

真夏日でも長袖・長ズボン作業服

5月になると私は半袖で過ごすことも多

「作業着におろす」

とはいえ、こうして作業服を採用している福祉的就労の現場は一部だろう。ここで話している作業服は、いわゆるブルーのよく工場の方が着用している作業服である。このようなユニフォームである作業服を採用していない事業所では、通勤着と作業着を区別をしていることが多い。作業時に着用する、動きやすい、汚れてもある程度大丈夫な服装をその着用目的から「作業着」といつている。(職員は「この服少し傷んできたから、作業着におろそう」というようなポジションにしていることが多い。)そのため「作業着」は人によってまちまちで統一のユニフォームではない。朝登園する時は通勤着を着用し、カバンのなかには作業の時に着る服をもって来る。そして、事業所に着くと、更衣室にいき、自分のロッカーに荷物を入れる。そこで作業着、厳密にいうと作業時に着用する服に着替えている。

「着替え」という仕掛け

私の身近なところでは職員と利用者の更衣室を共用している。つまり、着替えを共にする「裸の付き合い」的要素も伴っているともいえる。一泊で事業所全体が出かける行事などがあるとさらにその度合いは増す。それゆえ、様々なこともわかる。一人暮らしをしている方もいるので、衛生面での自宅での下着の取り換えができていいのか？機能面での下着の傷みなどで買い替えの必要がないのか？そして、体の健康面では、腫れ、むくみ、ケガ、傷がないか？そんなことも見えてくる。ケースによっては、ご本人が1人で入浴等ができていますと、か

えって周りの人が気づかない。いつもの状態ではないことを、他者に伝えるというのは健常者と比べて生起しにくい行動である。そして、そういった日常の着替えの場面で見られた体の状況から、虐待？というようなことも確認したことがなかったわけではない。ズボンを脱いでカサブタがあるのがわかって、実は通園途上で転倒していたことがわかって、病院へいくという類のこともあった。こうした着替え場面が就労の場にあることによって導かれるものもある。

作業中、作業服の胸元に見えた(作業服の下に着ている)シャツとお昼の食事場面で着ているシャツが同じで、着替えができていないので声をかけることもある。作業中は胸元のVゾーンから出ているシャツにも汚れは結構付着する。そのため、通勤着、



著者近影 (撮影：成田舞)

お昼の食事の時に着るものとは着替えるように働きかけている。

ベテランはズボンの裾が短い？！

話を戻して、作業服はユニフォーム屋さんで作ってもらっている。ウエストのサイズ、股下を採寸して、そして上着の胸元に名字のネームを刺繍して数日で届けられるというのが私のよくお世話になったお店とのやり取りである。毎日使うので洗濯も頻繁にされ、また翌日使うので乾燥機も用いる。乾燥機を用いるとやはり「縮む」。そのため、ユニフォーム屋さんはそれを見越して、大きめのものを準備してくれる。それでも数年着ていると縮んでいく。裾はじわじわと短くなる。そして、人間の体のサイズの方は加齢とともに体重が増える人も多い。そしてなおかつ服は「縮む」。生地傷みも日々発生するので、ある程度着ていると今の体のサイズにあわせて作業服の買い替えが必要になる。私のよく知るところは洗濯を事業所でしている。そのため洗濯機と乾燥機とあわせて約20台日々稼働している。毎日使うので電気製品の洗濯機器の傷みも家庭とは比べ物にならないほどはやい。フィルターの汚れもすごい。毎日、掃除機で利用者さんが掃除をしてくれている。

洗濯が終わるとその方のロッカーの前に作業服を配る。その日着る作業着、洗濯している作業着と2着を着まわす。(夏用も冬用も合わせると計4着。)洗濯、返却がきちんとできていないと自分の作業服がない、仕事ができない、どうしよう！となる(も

ちろん、予備も準備している)。人数も多いので、たまに他の方の作業服と紛れてしまったり洗濯機に取り残されていたりがほとんどである。

～もすなる針仕事といふものを…

ある日、扉を開けると男性職員ばかりが3名、作業着のボタン付けをしていた。全員が利用者さんの作業着のとれたボタンをつけていた。「ここにきて、ボタンのつけ方を先輩に習いました。家ではしたことはありませんでした。家庭科の授業で習ったかな…」と一人の職員が話す。そうした補修・修繕も利用者ご自身、もしくは職員がしている。そのため、事業所には裁縫道具と予備のボタンの準備が必須である。

汚れも傷みも勲章

新しい作業服はのりがきいてパリパリである。使えば使うほどにあちこちがクタクタにはなるが、それはそれで「勲章」のようにも思える。なかには「汚れているのがかっこいい」というか「仕事している感」を味わいたくて(かな?)、洗うのを嫌がる利用者の方もいる。頑張っている証拠を実感できるのがいいのだろうかあと感じている。それも一つの広い意味での着こなしなのかもしれません(ダメージ加工的?)。衛生上の問題があるので定期的にその方のロッカーの中にある作業服を洗濯に出して洗うようにと私たち職員が関わるのもよくある場面である。



(撮影：橋本総子)

また、安全上、作業着の袖のボタンを留めていなくて、ヒラヒラさせながら作業をしていたり、上着の裾やその下の服がヒラヒラと出ていたりするのは危険である。機械に巻き込まれたり、引っかかってしまったりして大きな事故につながりかねない。

気持ちを作る服

私がいるところでは職員のジャージ着用は禁止です。これはジャージの動きやすい服装というのが誰のための機能か？というところなんです。つまりそれは着用している職員のための機能ではないかというところである。家でジャージを着用している人も世の中にはいるが、ある景色の中にいる人が

ジャージばかりということは運動をする場面でしか見られない。知的障害者の就労は生活場面なので、生活場面の服装、もちろんケアに必要な動きを制限しないものを着ている。ジーンズやTシャツで働くことも多い。

作業服を着ることを支援場面で意図的に採用しているところもある。作業場面とそれ以外の場面とで気持ちを切り替えることを目的にし、気持ちの張りが出ることを期待している。仕事に意識を向けることができる、お金をもらっている時間であるという意識を具体化できるあたりを狙っている。同じ制服を着ることでの所属意識とここにいる全員で力をあわせて一体となって頑張っていることも共有できるし、共有してほしいという思いがある。

みんなが作業服を着るとますます職員なのか利用者なのかはわからなくなる。そして、そのスタイルで共に汗を流して働く。その共有体験が支援のベースにある信頼関係を作っている。

作業服も、人も大切に

サイズが合わなくなった作業服はネーム刺繍を外し、他の方が使えるよう予備用として保管する。リサイクルである。他にも、別の事業所で不要になって、まだ使える作業服もいただいている。事務机、ロッカー、靴箱なども多くのリサイクル品を私の現場では使っている。資源を生かし、大切に使う。この姿勢はわれわれが持つ福祉観とも共通している。

BACK ISSUES

食べる 20 2015年4月

通勤 19 2014年12月

クスリの作用、人の作用 18 2014年9月

倫理観でかたづけられる暴力 17 2014年6月

触れる 16 2014年3月

対談企画 「教育と福祉の連携を模索する」 2014年3月

情報の格差 15 2013年12月

20年前のノートから 14 2013年9月

そうじのねらい 13 2013年6月

個別化の暗部 12 2013年3月

グループワークの視点 11 2012年12月

実習生がやってきた！ 10 2012年9月

月曜日のせいやな 9 2012年6月

所得を決める福祉職？ 8 2012年3月

世界とつながる社会福祉現場 7 2011年12月

この現場へのたどり着き方 6 2011年9月

障害を持つ友達と過ごすとは？ 巻末座談会

2011年9月

旅行がない！ 5 2011年6月

職員の脳内回路 4 2011年3月

たかがガムテープ、されどガムテープ 3

2010年12月

利用者が仕事上の戦友 2 2010年9月

障害者自立支援法で不景気に！？ 1 2010年6月